

議 事 録

会議名 令和5年度 第2回国見町総合計画審議会
日 時 令和6年2月16日(金) 15:00~16:40
出席者 21名(欠席者:1名)

1. 開 会 (司会: 企画調整課長)

2. 町長あいさつ

3. 役員選出

会長に岩崎由美子委員、副会長に八島富一委員を選出

4. 審 議

① 令和6年度国見町当初予算案の概要について

【質問・意見】

- **委員**: 予算説明について、議会で承認されていない内容を議会前に説明することに違和感がある。
事務局⇒町だけではなく国・県も事前にマスコミ等へ予算の説明は行っています。審議会に案としてお示ししているものです。あくまで最終的に決定をするのは議会です。
委員: 次回からは「案」という説明をしてもらいたい。
- **委員**: 前回の委嘱状は任期が令和5年9月23日までとなっていた。今回、任期について10月1日からという案内があったが、委嘱状には任期の始期が明記されていない。普通はいつからいつまでという記載があると思うが。
事務局⇒事前に承諾書等で通知を出させていただいたとおり、今回の任期については10月1日からとなります。また委嘱状については今回が初めての審議会となるため、今日付けで終期を記載しています。
- **委員**: 小中学校の体育館の空調に関して、前回の審議会で出した意見が形になっていることは嬉しく思う。先日、保護者の意見交換会でも「部活動や体育の授業で子供の安全が心配」と、空調の問題が最初に出てきていた。
また、今の教育環境はICT教育でものすごく変化している。PTAの県大会等で色々な学校の事例を聞くと、ICT教育で進んでいる学校はたくさんあると感じた。教育に関して国見町で本当に手厚い保護をしてもらっているが、くにみ学園構想が一度凍結ということになってから、教育の在り方について声を出しづらいような状況になっている気がする。もっともっと学校内で改善すべきところ、老朽化から発生する問題もあると思うので、引き続き協議を重ねてもらい国見町を支えていく子供たちの教育のために手厚い支援をお願いしたい。
事務局⇒どうしても国のモデル事業については先進的なものとなるが、実際にはデジタルとアナ

ログの両方をバランスよくやっていくことも必要なため、町としてこういったやり方がいいのか検討しながら整備していきたいと考えています。様々な課題がありますが、体育館の空調も含め今後も引き続き、子供たちの安全安心を第一に、さらにその上で子供たちをはぐくみ育てていくように進めていきます。

- ・**委員**：観月台の体育館がなくなって災害の時には、藤田地区の避難所は小学校の体育館になると聞いた。能登半島の地震で大変な被害があったが、学校は早く再開しようということで避難所の人たちも動いています。東日本大震災では、仮設住宅ができない間は観月台体育館で49日間炊き出しをしたが、小学校の体育館では炊き出しができないと思う。昔は藤田地区にも小さい公民館があったが、地震でほとんど壊れてしまい集まりでもなんでも観月台を使っているが、そんなに部屋もなく体育館も壊してしまったとなると、避難所が足りないと感じている。子供も大事だし、避難所も大事だと思う。もっと避難所のことをしっかり考えていただきたい。

事務局⇒町の避難所については19箇所・約3万㎡の面積を有しており、東日本大震災では学校の校舎等は一切利用しませんでした。観月台体育館がなくなったため有事の際は小学校の体育館も藤田地区の避難所として指定しているところです。実際は避難が進むと人数は徐々に少なくなります。基本的には観月台文化センターを使うようにして、学校への負担はかけない形での避難所の設営を考えているので、ご理解いただきたい。

- ・**委員**：おかげさまで令和5年度はJA ふくしま未来としての桃の売上は約74億円という驚異的な数字を出すことができました。国見の営農センターでもはじめて売上が10億円を超えることができました。これも住民の皆さんの食べて・買って応援のおかげです。

近所の方から「もんも」という施設について話を聞いた。詳しい内容がわからなかったので、支援学級なのかと聞いたら違うとのことだった。私はたまたまこの話を聞いたが、町民の皆さんにも状況を知ってもらいたいと思う。

事務局⇒「もんも」は桑折町にある児童発達支援・放課後等デイサービスです。国見町の児童も通っており、今までであれば近隣には伊達市にしかデイサービスがなく、なかなかサービスを使えないことが多かった。桑折町にできたことで今まで使えなかった児童も使えるようになったり、週1回だった利用が週2・3回になったりして子供の療養がしやすくなっています。経営している方が国見でも事業展開を考えていたが、予定していた職員が退職してしまったため難しくなったとも聞いています。経営者から直接話を聞きながら、国見の子供のためにも今後考えていきたい。

- ・**委員**：他の委員からあった体育館の件、私も議会で一般質問をさせていただいたが、回答の内容が若干違うような気がする。以前は学校と体育館は管轄が違うから一緒にできないと言われたと思うが、皆さんにも分かるように説明いただけないか。なおかつ、今後観月台に体育館を作っていくのかどうか、併せて説明いただきたい。

事務局⇒過疎計画を作るにあたり、公共施設は減らさなければならないと説明をしています。現在を100だとすれば80ぐらいまで落としていかなければなりません。観月台体育館は震災に

耐えられなかったので壊すしかありませんでしたが、同じ場所に作るかどうかは別として、総合的に今の施設を統合や縮小を検討しながらいらぬものは廃止していく議論が必要となります。体育施設については教育委員会で、作らないのか、違う場所で作るのかなど議論を踏まえてやっていかなければならないので、今すぐそこに作るかどうかはお答えできる状況にはない。ただし全体のボリュームは減らしていかなければならない。

防災的な視点から言えば、先ほど申し上げたとおり、面積的には十分クリアしていると認識しています。令和3年、4年の地震でも避難者数は観月台文化センターで十分クリアできています。能登との決定的な違いは、昭和56年の建築基準法改正後にできた建物の割合だと思えます。能登は5割を切っているが、国見町は東日本大震災、令和3年、令和4年の地震を踏まえても80%から85%くらいであるため、そう簡単に崩れてしまうということはなく、今すぐに避難所をという話ではないと思っています。過疎計画に則って議会、総合計画審議会、その他の会議を踏まえた中で色々な意見を集約して進めていきたいと思えます。

② 令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）効果検証について

【質問・意見】

- ・**委員**：説明のあった1ページ目、地域おこし協力隊が参加している事業におけるKPIの考え方について疑問に思った。KPIの①について移住者の人数に地域おこし協力隊も含めてカウントしているが、地域おこし協力隊は任期後にいかに定住するかだと思う。移住者数ではなく、定住者数をKPIに入れるのが大事なのかなと思う。KPIの数字が悪いとしても、町の現状を把握して、この町の魅力について議論する材料になると思えます。そうするとKPIの②も変わってくる。

事務局⇒今回の対象事業での移住者のKPIを設定することが初めてだった部分もあり、数値の算出の仕方については県外からの移住者ということでカウントしています。今ほど委員からあった部分の定住者を数値目標に反映できるかも含めて次回の事業等については参考にさせていただきます。

また、転入転出者を対象に簡単なアンケートを次年度以降取っていきたいと考えています、その中で移住者等の新しい数値を計上することでよりわかりやすいKPIを設定していきたい。

- ・**委員**：藤田商店街は廃業や閉業が後を絶たない状態で、このままだと5年後10年後には国見の商店街がなくなってしまう危機感がある。東日本大震災その後の2回の大きな地震で店舗を解体し、空き地になっているところも多い。行政として商店街のこれからをどのように考えているのか、空き店舗をどう利用していくのか。空き店舗は持ち主が居住していることも多く、また借りたと言って簡単に貸せるような状態でもない。難しいとは思いますが、今後こういった対策をしていくのか。

事務局⇒商店街の振興をどうしていくか、農商工の振興を図る産業振興課として大きな課題だと思っています。町内の中小企業・小規模企業者をしっかり支援していく、支えていく理念条例として昨年4月に中小企業・小規模企業振興条例を策定しています。条例に基づき今年度は企業訪問を行っています。町内全事業者約300社の大多数を企業訪問し、実情を聞いていきたいと思っています。製造業、建設業などの分野の企業訪問は終了しているので、今後商店街の小売店など

を回り、各店舗の声を受け止めて、施策を展開していければと考えています。例えば、地域おこし協力隊に空き店舗や更地でチャレンジショップを開いてもらうなど、様々なやり方があると思うので皆様の意見を聞きながら、今後進めていきたい。

会長：今話があった空き店舗に協力隊が入るという話、宮城県栗原市で熱心に取り組んでいて、4名の協力隊が入っています。卒業した後も商店街でカフェを経営して定住しているので、そのような形で商店街の活性化に取り組むのもいいのかと思います。

- ・**委員**：商業の活性化も大事だが、買い物する人が少ないのも問題だと思う。国見町で働く人だけではなく、町外で働く人に対してベッドタウンとして空き地を宅地にして住む場所を増やしたり、通勤手当を補助するなどを同時並行でやれると、国見町は交通の便も良いし、人も増えて商業も活性化するかと思う。

事務局⇒人口減少などの対策として、現在住居については資料1の14ページにあるとおり、移住・起業・新規就業支援等補助金で住宅の取得や空き家の改修については県内トップクラスの支援を行っています。また、大阪オフィスや子育て住宅といった住宅政策も進めているので、移住などしてもらえそうな政策を総合的に行っていければと考えています。

- ・**委員**：卒業で若者が都会に離れてしまい人口がどんどん減っていくこと、どうにか止められる方法がないかずっと考えている。国見町の色々な会議に参加すると、どうしても移住については「農家になりませんか」というアプローチが多いと感じる。ただこれはどこの町でもやっている。国見は桃がおいしい、田んぼがあるからやりませんかという、農家を支援する施策が多いが、工業関係の会社をやっている人間も町にはいる。

今年の4月から18歳の男の子が会津からうちの会社に就職する。地元で父親が商売もやっているが、工業関係の仕事と一緒にまちづくりも学びたいということで、私のところで働きたいとなった。また、引越し先の住居について町に相談したところ、定住促進住宅に空きがあり入居することができた。両親も、町が管理しているので安心だとのことだったのでこういった移住の仕方もあると気づいた。

我々建設関係も高齢化が進んでいて、跡取りの問題や若者を誘致したいという気持ちがあるが、手間を考えるとハローワークに申し込むほどではない。農業もいいが、工業でも、町が会社と若者とのお見合いみたいなものを作って、さらに国見の住宅に住めますという発信をすると、新しい視点でも移住が広がっていくのではないかと感じた。

会長：今の意見ですごく大事だなと思ったのが、工業・ものづくり、さらにはまちづくりも学びたい、そういう若者が来てくれたこと。そういう意味では国見町ってすごく魅力的で、住民の皆さんもエリアデザインラボなど色々な動きが出ていて、そういうのも一緒に学べる。すごくいい地域なのかなと思う。工業部門にも広げたマッチングも必要ではないでしょうか。

委員：うちも自営業の工務店だが、若手の人材不足が問題だと感じる。大工さんになるような若い人が本当に少なく、職人さんも高齢化している。町でも今委員が言ってくれた取り組みをしてもらえるといい人材が見つけれられると思った。

事務局⇒資料1の12ページ中段に、地域おこし協力隊の農業部門ということで、果樹農家宅に

3年間研修して、4年目から国見町に定住をして、就農するという制度を令和5年度から実施しているが、今の意見を聞かせていただくと、この部分を商業・工業にも拡大することも可能だと思った。貴重な意見をいただけたので、先ほどの商店街のチャレンジショップなども含めて、農業からいい意味で、商業工業にも波及するような取り組みを国見版という形で考えられれば面白いと思います。

・**会長**：移住や協力隊という話題になっているが、移住者の委員の方は何か意見ありますか。

委員：東京で移住先を調べようと思ったとき、有楽町の移住者相談センターで福島県のイベントがあり、ブースで色々な移住者の話を伺った。例えば昭和村ではカスミソウで二千万円稼いだなど、色々な話を聞いたが、国見町のブースがあったことには気づいていなかった。国見町の魅力があまり届いていなかったのかなと思ってしまった。ただ、先ほど県内でも随一の補助金だとか、移住に関するサポートがあると聞いて、福島市とか大きいまちの方が手厚いサポートがあるのかなと思っていたので、もっともっとそのあたり町でPRしていけたらいいと思う。

あとはインターネットで調べていると、県北地域で住める場所が出てくるのが桑折町までしかなく、国見町は五右衛門風呂が0円というホームページだけで全く更新されていなかった。先ほどの委員の話にあったように、実際に行って役場の人に聞くと住む場所があるとわかるが、遠くにいと全く伝わってこなかったのが、興味を持った人に情報が届くようにできるといい。また、伊達市にあるようなお試し移住ハウスのようなものが国見町でもできれば、良い町なので人は増えるのではないかなと思っている。

会長：国見町にお試し住宅はありますか。

事務局⇒今のところはまだないです。

会長：外から見て、国見町の情報発信とか、もっとこうしたらいいのにといい意見が色々出たので、国見の良さを分かりやすく受け止めてもらえるようにできていければいいですね。

・**委員**：先程委員から観月台体育館の話が出た。防災という立場からの意見でものすごく大事だと思う。

同時に観月台体育館は、中高年の方に人気があり、稼働率が高かった。そして観月台公園は県でも有数の公園だ。観月台公園、商店街、そして道の駅、これをつなぐ導線として道路を確保、新設したが、体育館の跡地を観月台文化センターの一部として再開発するのか。それだけではなくて、体育施設だったら、例えば5年以上使っていない町民プールをどうするか、上野台の体育館も40年ぐらい経っているがどうするか、そういう体育施設の再編という立場で議論するのか、それすら今のところ決まっていない。だからお願いしたいのは、議論をする場をまず作ってほしい。文化センターの体育館跡地に絞るのか、それとも私が申し上げた道の駅などとの一体利用にするのか、体育施設の再編なのか。これを整理して、できるだけ早く議論を進めていただければと思う。

事務局⇒公共施設の統合計画、個別施設計画で過疎計画に向けた基準の策定をしており、目安・方針は記載しています。観月台体育館については地震前でも古いので廃止という計画でした。あと上野台の体育館も古いので廃止するとなっています。総合的に考えた方がいいという結論は一致していて、それも含めて、個別計画が議論の土台だと考えています。過疎計画上、100あるも

のを 80 にしなければならない。ただ、それも全てコンクリートではないので、民主的な議論も踏まえたうえで、委員の意見にあった藤田駅前から道の駅につながるグランドデザインをどうしたらいいか。観月台の基本計画を進めているが、次年度以降の駅前開発もあるので、そこを踏まえたうえで、立地適正化計画と合流するような形で、議論を深めていきたいと考えています。都市計画関係の委員会が立ち上がると思うので、そこで詳しく議論を進めたいと考えています。

③ その他

【質問・意見】

- ・**委員**：前回の審議会で、今までの議事録は町 HP にアップされていると伺ったので印刷して確認したところ、令和 4 年 8 月 23 日の令和 4 年度第 2 回審議会で第 6 次国見町総合計画の一部変更についてということで、くにみ学園構想の内容が一部変更されている。そのあとくにみ学園構想は白紙撤回になっているので、この部分は変更する必要があるのではないか。

事務局⇒くにみ学園構想については、撤回ではなく凍結です。総合計画には残っているということでご理解いただきたい。

5. 閉 会